



能登半島地震における
当市の対応
ごんどう 彰治(政新クラブ)



問／地震発生当日、登庁できなかった理由は。

答／震災直後に津波警報が発表され、登庁を試みたが、国道8号及び高速道路が通行止めとなったため登庁を断念し、自宅リモート対応した。

問／津波ハザードマップに照らし合わせても登庁経路の標高は高い。自分の身の安全ばかりで市民の安全はどうなるのか。また、津波ハザードマップを見直す考えはないか。

答／ハザードマップは、県の津波浸水想定に基づき作成しており、現時点で見直す考えはない。

公共下水道整備区域の見直しの考え

問／公共下水道整備区域の見直しにおいて大貫4丁目町内会は既に整備された区域と見直し区域で町内が分断されている。見直しの考えは。

答／安定的な下水道経営の実現に向けた取り組みを進めるため、見直す考えはない。

儀明川ダムの本體工事の進捗状況

問／令和7年には儀明川ダム本體工事に着手予定と総会や一般質問で説明があった。本體工事が遅れるとの情報もあるが進捗状況はどうか。

答／県から、建設予定地は断層や弱い地層が分布する複雑な地盤であるため解析に時間を要し、今後も構造解析が必要となり、本體工事の着手は令和10年度以降を見込む旨の説明があった。



上越の宝「義の心」の
周知・普及と継承を
高橋 浩輔(みらい)



問／市は「義の心」を地域の宝に認定している。その周知・普及や次世代への継承のための取り組みを進めるべき。「教育の日合言葉 義の心をつなげよう」の活用・浸透をどう総括するか。

答／現在学校で「義の心」を特段取り立ててはいないが、合言葉の中にその精神は生かされており、その心持ちで教育に取り組んでいる。

問／市長は、上杉謙信公の最も大切な価値は「義の心」であると答弁している。子どもたちに義の心の価値を伝え、広め、そして継承していくことについての思いを聞きたい。

答／米沢市では小中学校の体育館に鷹山公と謙信公の肖像画が掲げられていると聞く。教育の中においても、米沢は上杉鷹山公だということを米沢市民は話される。この取り組みは学校教育や市民の生活の教育の中に必要なものだと思います。今後の取り組みについて改めて考え直していく決意で進んでいきたい。

「文化財保存活用地域計画」の策定

問／県内最多の文化財を擁する当市こそ、法的根拠を持つ「文化財保存活用地域計画」を策定すべきであると考えられているか。

答／まずは現在ある「歴史文化基本構想」に基づいて文化財の保存活用を進めていく。計画の策定は今後必要に応じて検討する。



地域医療を
しっかり守れ！
上野 公悦(日本共産党議員団)



問／新潟労災病院は、令和4年度実績を見ると特に整形外科で年間1,039件、歯科口腔外科でも他病院ではできない手術等合わせて1,564件もの手術を行っている。入院、リハビリ等大変な数だ。救急車受け入れも減ったとはいえ510台以上である。これだけの機能移行が本当にスムーズにできるのか。

答／6病院が受け皿となって移行する。とりわけ整形外科の手術はご指摘のとおり件数が多いので一番懸念している。医師やスタッフは県立中央病院、上越総合病院から動いてもらえると考えている。ネックになってくるのは手術室が足りるかどうかだが、何とかかなりそうだ。

問／何とかかなりそうではだめだ。10万人当たりの医師数は全国平均240人に対して、上越医療圏ではなんと149人である。医師も増やさないと、病床は減らす、労災病院をなくすことを前提とした再編では地域の医療は守れない。

答／医師を増やすことは最大の課題であり、働き方改革でさらに厳しくなる。質の高い新しい病院も含めて安心できる地域医療を作っていく。

木造住宅の耐震改修における補助

問／活用しやすい制度となるようお願いしたい。

答／補助要件など利用しやすいよう検討した。今後、古い木造住宅2,300件にも周知する。